畫圖西遊譚
貳

西遊旅譚巻之二

八月七日鳥羽を発して舟にて島々の方を渡る風景佳なり
飛島と云ふ有り又左に朝熊山を望む走ること二里二見
の岩を右の方に見て又しばらくして一里ばかり三軒家と云ふに
舟を着る 此所酒食アリ 五六町ばかり行川崎といふ又行事一里則宮河
なり細山田川峠の浦しの海より萱屋なし
杉わきて瓦屋なり
八月九日江州土山の駅をいでて京入山中小川を越る
事二瀬又行て大河二瀬を渡山中より入山の頂をと行加井掛

ところ漸人家絶てそれよりハ平地にして田畑のあひだを行
日野に至ここに数日ぞ滞る人家二千餘軒四面山めぐりて
海をも見え加藤侯の領地なり
八月十二日日野より一里餘山路に入小野村といへる墓の山ー

山田の町家作り

林にして田夫の茅舎ところ〳〵有
行厨をひらきたれバ童子二三輩
かたハらに来る餅糖など與んとて
出しけれバ西菜の児ハ不受して
傍まで来る五六歳の童ハ畏て

小野村山中の小童

皂角子(サイカチ)の木多し 土俗曰 むかし人魚の血落たる所へ生じたる木と云

人魚墳

八方に文字ありしもみえず

土民の曰 救世(グゼ)菩薩の墳と云 小童石とよび うてば鐘のごとくといふと

無きぬ 山林の面白ハ総て都の人の美服よりも勝りたりとて人をよろこばしむる所謂なり 此一村四十余軒あり又四五町許山径に入路傍り四隅の墳あり救世菩薩の墳といふ又人魚を敷る所といふ 蒲生川より人魚をとりたる聖徳太子崩御の時なり 夫より西の方不動堂あり堂の前に八方の墳あり是人魚墳なり日本紀に推古帝二十七代四月辺にとられ又これより二里余石塔村あり村内石垣に有る飛石又ハ流に投田のくろに家の隅にある所に路に九輪丸石屋根形の類に石塔の片あり稲に石塔寺なる石坂あり石壇あり石塔の古きあり堂に攀るより二十間余に上百歩四

方の平地にして石の大塔ありめぐりにも石塔多し

日野より二里余寅の方より前の川ハ二間程ありて
流れて末ハ大なる川原
よる則蒲生川是也

日野より二里乾(イヌイ)の方石塔寺の大塔乃圖

大石をもつて作(ツク)る古老乃曰天竺にて釋尊入滅一百年の後月氏國阿育(アイク)王八万四千乃寶塔(ホウタウ)を作(ツクリ)十方世界へ投(ナゲ)うち玉ふ一塔こゝにとゞまるとなん然れバ千年を經(フル)ものならんといへり

總高サ二丈五尺余

文字なし

此塔昔ハ崩(クヅレ)たりしを石塔寺を創立して此塔をつみたてたりといふ

此村にも山中人跡絶たる所に一塔あり遠くよりのぞめハたゞちに見ゆ

石塔寺の圖
大塔
此ほとの石塔
嘉元二年
ノ彫付く
石塔寺
本堂是也
石堦石塔ヲ以疊ム

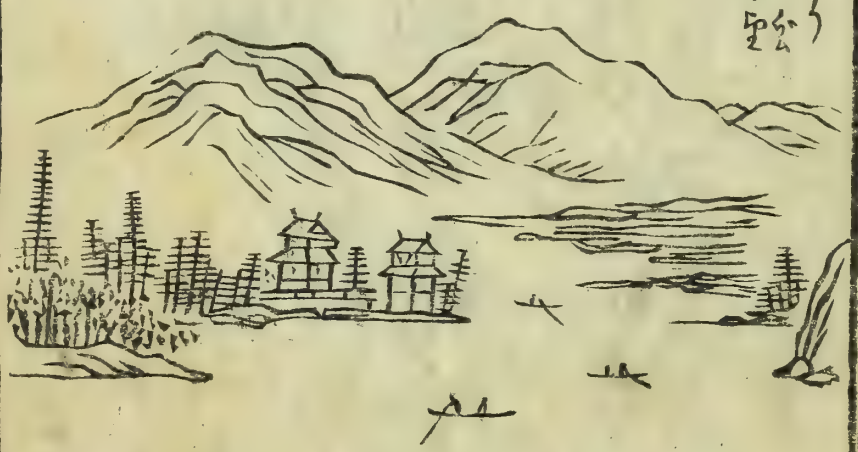
日野ハ加藤侯の領地にして此石塔寺ハ仙臺侯ハ千石の領地之
夫より一里ほと山に入月を戴て草中鈴虫すゝし
山〳〵をはなれし川渡し初更に日野へ帰る
日野町より川を越綿向の社よりハ甚境内神輿庫乃南にあり
封疆の裏に墳墓ある圖

延慶人皇九十四代花園
院乃年号也寛政二年
庚戌迄五百年ニ當
碑銘圈點するハ字疑者也

此三字在トモ不見

二親幽靈無法界
永五成佛得道也
方卒都婆志者為
延慶三年十月十六日
願主日記重方

八月十五日石山寺に宿して月澈照て山湖水を繞勢田の橋見えて佳景也
ウゴイト云魚ハスド云魚蛤皆湖中ノ産ナリ

十七日大坂に着き数日滞(トヾマル)高(コウ)津(ヅ)の祠より西に向きて望む大坂八九分見る此地の繁(ハン)華(ゲ)なれハ言を略す

高津の祠より見る図

高閣ハ西東乃本願寺也

芝居川筋
木津川

天王寺石乃鳥居唐銅の額あり
小野道風の筆蹟といふ五重の塔
もあり外堂多し
清水観音ハ高き所也眺ハ壊筋見ニ
皆畑也瀑瀬などいふ遊亭あり

大坂より船にて渡(ワタリ)兵庫まで十里摩耶山(マヤサン)下(カ)を走(ハシリ)て則(スナハチ)兵庫(ヘウゴ)に至る市街(シカイ)(イチマチ)富商(フセウ)(トミアキンド)多し清盛の築島楠正成の塚あり和田の岬(ミサキ)行平乃松あり晦日須(ス)磨(マ)寺(テラ)をすぎて敦盛の石塔(セキタウ)を見(ミル)

仲哀天皇の陵路傍にあり白失垂水山の上千壷といふ所に陵乃跡あり舞子濱松偃て道中第一の佳景也まより明石にいる人丸の祠ある門より入石碑あり建寛文四年甲辰明石城主日向守源信之しるす誌

九月朔加古川と云驛より左方に入尾上の鐘高砂の松を
若乃松ハ枯て若松を植たり尾上乃鐘支那物と見えたり
模様ハ天人樂器を鋳たり
住吉の祠又山畑を越て石乃寶殿是也大石皆山を添
ふ則御影石也切出せ

尾上の鐘乃圖

曽根の松ハ天満の祠乃垣
内にあり祠大社にして老松
實に千歳を經る大樹也
夫より豆崎の驛に出る也

石の寶殿
石
石
一枚石也
四丈四方
山皆石
石
曽根の松
甚乃大松にして龍蛇のわだかまるがごとし
一方ハ枯たり

市の川より
姫路乃
天守
見ゆる

市の川乃前より姫路乃天守見ゆ爰
をさりて下れば左りは赤穂へのはいる
川へ二里片島の驛より赤穂へ三里
山より入（赤穂ハ往来に行かば南海なし）数日城下に留まりて
城内大石内蔵の屋舗門より二巴乃紋を
五日新塩濱しほ浜を見物して三
岬の明神へ参詣して社古大松海岸
を繞り波濤漲る島々は連りて風景佳
き濱辺より舟出し渡海して三里坂越

坂越(サコシ)
生島(イクシマ)
大慈閣

ヨリ至る船つき市中人家(ジンカ)多し。八日赤穂を発(ハツ)して市街(マチ)をはなれて山路に入りて三里ばかり山林にして路狭(ミチセバシ)其所杉竹(マツタケ)多し是より八木(ヤキ)山越といふ片上に出る即八幡宮(スナハチハチワウクハシ)あり是よりは備前なり伊部(イン)村焼物有備前焼是なり。かゝとゝ云る右の方に入事半里両山競(キソフ)て高き山径(サンケウ)石ども多て穴(アナ)あり上に草木を生し穴庫(アナグラ)のごとし此ものは又樵者(キコリ)に日を見て問(トヘ)ば塚なりとものゝし

何の時作りし哉知者なし此山の彼方に二間三間又ハ五六間
方なる塚大石を以て畳て作る者多し總て備前備中
の國内古墳陵の類多し然とも往古の事ハ傳記なし
此奥十餘町に有る観音と安置せる飛泉をみる大路より
而より夫より四里ある岡山ハ城下市街続て富人多し
京橋より一二町を隔て二ツ並ある旅籠の家ある
十一日岡山を發てゆく二里備中の備中の境なる所より吉
小一社の吉備津の祠に釜ある初穂銀を納れハ火を焼
其釜忽鳴動するよし奇也備中の國の方ニ七奇事あり

祠も後世建たるよし茲よりの二里右乃方に入足守也木下侯二万五千石の領地なし陣屋より黒宮氏の庭中に有る石は古礎なり径二尺余是は備中足守賀陽郡溝手村賀陽寺乃古跡より堀出せし千年を経しもの也又径尺五六寸余生焼の壷あり同賀陽郡巌山下より堀出せし外に鬼面の瓦をも見る肉高く作りて常にみざる物也

色ハウス墨灰色ナリ

領内柏井と云所足守より一里田の中丈四方雪の不積所あり黒宮氏発掘して湯治場となせり浴する者多し

挟まりて五六町ちかくして中山出はつる処岩石数十丈
聳えて飛泉あり又鬼城といへる所石を以て堞のめぐれる
鬼の釜口径八九尺あり因幡の方へ十余里鐘乳穴あり
穴中甚広く鐘乳石多し
備中下道郡南山といふ所古墳あり河辺の駅より十二
三町南へ入墳の高さ七間半許登りて上丸広さ亘六間中
壇広さ一間半に周二百四十歩許溝も深さ六七尺埋れても遶
封疆の高さ六尺形橢周四百歩余所々壷を置その
数千もありしが今ハ二十許残りける

壷乃口径八寸高サ一尺二寸如圖半に帯あり素焼にして赤色なり

備中下道郡二万里塚の圖

塚の其の後左右荒れ壊して今ハ田となる
大墳高八間ばかり小墳高サ七間小墳大墳に傍て
穴あり其崩たる穴乃口廣さ六尺二三十年前
までハ人這入しと云傳へ聞に穴の内平らにして
凡十四五歩行ハ石門ありて石の
扉ありて是よりハ底の方に
空ありて入りしと云ふ上古乃
王侯乃墳なり

同山手村古墳有り十五六間許山ゟ登て穴有り二間深さ内に
入りし八間程四方天井石一枚ニして
左右も一枚石也穴中
高さおよそ七八尺
是より國分寺へ
五町有也

九月十四日足守を發して長田村を過き窪木村より宗坐と云
所人家つゞきある富商もある夫より中原川を渡て岡田より
至伊東侯の陣屋あり程なく矢掛に至る往還より板倉侯
領地人家續く此間吉備公の墳あり夫より神邊今津此
皆福山の城見ゆる阿部侯十万石の領地なり過れは尾の道
と云に至る市街縦横にして富商多し西は小江戸と云よし
藝州侯の領地と此所より船に乗舟を出して東風に走
事十八九里夜に入小島につけて泊る夜半東風吹て船を
出し明方小島に至る船中より西南の方を眺望海波

を照し島々点々としてぬれたる艫の方に立て其景を
し川上氏此趣ハ紅毛油画法をもて写し扨此風景広島
川ニ入る猫屋橋に着、広島ハ芸州侯の城下市街縦横あり
則左方ゟ見て右の方に入魚市場あり繁昌の躰也夫より町を出
離て海辺に出小島数々ありて佳景也夫より一里半草津といふ所を経
るゝ猪口といふ所より漁舟に乗宮島へ渡海上三里宮島亘七里田
畑なし樹を伐ず海岸より人家を作千余軒あり市中に鹿を放又
猿も有宮居ハ平相国清盛の創立也殊に美々しき事いはんかたなし
此日九月十七日大潮満て廻廊乃燈火水面に映ず

藝州嚴島宮之圖

彌山岳と云あり
山上に堂宮多し
木樹をきるれを
登る事をも禁す

左の方千手道場とて
堂あり龍堂とて
様あり

宮島を出て船にて小方（ヲカタ）
に至る爰に釣石（ツリ）明神（ミヤウジン）あり
是（コレ）より二里関戸（セキド）乃
驛（エキ） 右の方一里入（イル）防
州岩國なり
岩國錦帯（キンタイ）橋（キヤウ）
乃圖
岩山を
城山といふ
山に
寺あり

橋百二十間余
中の橋三ツハ
樋るし

九月廿日防州岩國山中にして海を三里を隔ツ此川の方ハ石見乃國より岩國城下錦川流て橋五ツ架たり其橋を百廿間ある錦帯橋と名く人家橋より西南に有り皆瓦屋にして富商有町二十餘町ありて二万余家あり旅館主人の語るに此國總て疱瘡を嫌ひ稀に疱瘡を煩ふ者あれハ市中に居る事なく私宅出小津村といふ所へ引越すなり此日ハ昼之時より海上蜃氣起るといふ先蜃氣起んとする時ハ春月天氣朗にして海上霧を生ず島々かすみて一里又半里を隔て城郭屋樓のごとく又

町船にて川を渡る十五六町入て阿品村より夫をかへて行の
八九町山の中に入犬戻しといへる山中骨をゝりて渓水に
山岩石ふみわけて飛事に峨々たり此ところ秋なりけれは
岩上草木紅葉して実山水画のごとし夫より一里余
彌山嶽とて山高く甚の嶮岨なる石を踏てのぼる
東へ二十一町余絶頂に堂あり山神を祭るよし
此山をおりて日暮旅館につく犬戻右の方山を越
行ば洞あり鐘乳石あり

犬戻
岩上松を生ず

犬戻

聳えたる岩の内洞あり
此路険く山ゟ石至て多し
十間廿間ハノ大石多し

犬戻
此所ハ岩聳ゑり
谷乃流ゝを飛りる

岩の皴

九月廿七日岩國を發(ハツ)して山中に入經て海邊に出(イツ)大賀岬(オホガサキ)といふ
なり向に牧島八代島相並其外小島數多見ゆる此邊より
蜃樓(シンロウ)見ゆる事ありて漁父(ギヨホ/リヤウシ)に尋(タヅ)ぬるに此日天氣よく[illegible]
ち果して春三月比の如し島々ハ空に浮(ウカ)びたる様に見ゆる
うち眺めて八代島霞(カスミ)に帶(オビ)てたれバ實に霞中の山あり
松むしの形(カタチ)似つかハしる漁父の曰是則蜃氣樓なりとや
見えてやみぬ秋起(オコ)る事稀(マレ)也抑蜃氣ハ島々より生
ずるに樓臺(ロウタイ)竹林(チクリン)の形似て流れ行てこなたの島の方へうつりて
行きハもとの島となる自夫(ソレヨリ)申ころにて大畠にいたる

此路海邊にして島々多し又沖前島つゞき一里大島つゞき
十里小鳥島小黒島小新五郎 是又小嶋也 及島の数二百余ありよし
瀟邊岩石多し風景佳よし七里ヶ浜也大畠の瀬戸といふ所より
見ゆる両山高く其山間僅三四町ばかり見ゆる海中岩石ぬけ
出潮の流急し夫より山をめぐりて大畠村にいたる此辺旅客
の通り絶て寂しき所なり柳井津村に宿す市
街瓦屋岩國の領地なり
廿八日柳井津を出しはずれ一里半多武瀬村といふ鶏
市といふ所人家多く紺屋多し布を染るに國木

山を越一ツ峠防州長州の境なり室積と云所山上より
ながむ佳景也山をくだりて人家千余軒ありしとなるど
乃邊鄙にして食店なしこゝを過て松原二里衛島田
ゆくに一村もある旅飯なし農夫の舎に宿す
九月廿九日朝飯出足して河をこえて濱邊松原をゆく事
半里余皆砂地なり又海岸に大石よこたはり或斜にある
事を飛越て通路として衛戸部と云所へゆく磯濱なり
人家をこえる毛利侯徳山の領地にして戸石と云に出此處
よりは東に徳山にある事四里福川より二里半

大畠の瀬戸
汐の満るに
殊に急流にて
船とゞむる事を
のし
豊後山
室積（ムロツミ）

冨海にて宿す冨海を発して行事二里半宮市此所人家有り佐波川を渡り右の方山間に入萩路也毛利侯三十万石乃城下なり岩淵峠佐野峠あり佐野焼とて火鉢壺の類をやく行事七里山中といふ所に一宿す山中を旅立発して行事二里半二股瀬川といふ所より吉見村新道峠あり船木といふ所人家つゞく冨商あり此辺総て家ごとに石炭を焚途中至て臭し又煙多し筑前よりも出る山腰を堀出炭は厚くして炭なり都て行事七里長府に至るまであいぶ河といふ川蓮臺寺坂吉田川あり岩國より此辺まで黄櫨の樹を植て紅葉如花